

1 単元 「ふえたり へったり」

2 指導観

- 本学級の児童は、1学期に「あわせていくつ ふえるといくつ」と「のこりはいくつ ちがいはいくつ」の学習で、合併・増加の場面を加法としてとらえ、求残や求補、求差の場面を減法としてとらえて式に表し、答えを導き出す経験をしている。そして、いくつといくつの分解・合成の学習を生かして、10までの加法・減法の計算もできるようになっている。また、20までの数の構成を加法的にとらえることを学習してきた。本単元に必要な既習内容の定着は、下の表のとおりである。

	正答	誤答
10までの数の加法・減法の計算ができる。	96%	4%
20までの数の合成・分解ができる。	96%	4%
文章問題を読み、加法か減法か判断する。	87%	13%

これらのことから、文から加法か減法かをとらえ、計算で順に求めていくことを身に付けさせることが必要である。

- 本単元は、電車ごっこの場面設定から、3つの数を用いて1つの式で表すことができることをわかるようにする。そして、2つの数の計算の時と同じように、順に計算すればよいことを理解し、求めることができるようにすることをねらいとしている。これまでに、5から10までの数の分解・合成や、加法や減法が用いられる場合や意味について、また「たしざん」「ひきざん」の用語を理解している。さらに、文章問題で加法・減法とわかる言葉に着目したり、挿絵を見てたし算やひき算のお話づくりを経験したりしてきている。これらの学習をもとに、それぞれの場面に応じて式に表し、答えを求めたり、式から場面を読み取ってお話を考えたりする活動を通して、3つの数の加減の計算の仕方が身につく、繰り上がりや繰り下がりのある計算の仕方を理解したり、説明したりする素地の学習になる単元だと考える。
- 本単元の指導にあたっては、挿絵からお話づくりをする活動やブロック操作、図に表して考えることをいかして、3つの数を1つの式で表すことができることを理解し、順番に加減を組み合わせた3つの数の計算ができるようにする。そのためには、まず、電車ごっこをして、お話づくりをする。ブロックを用いた活動を取り入れることで増えることの意味理解や式につなぎ、3つの数の場合も一つの式で表すことができることを知る。次に、同じ場面設定で減法の3つの数の計算について学習する。さらに、加法と減法、減法と加法の場合についても、それぞれの場面に応じて式に表し、答えを求めたり、式から場面を読み取ったりしていく。最後にお話作りをする中で、学習内容の定着を図っていく。また、本単元では予習・本時学習の展開(確認・適応・活用・ふりかえる)・次時の予告のサイクルで構成するとともに、ペア交流、全体交流を取り入れ、表現する場を設定していく。

特に本時では、まず、予習をもとにして本時学習のめあてをつかませる。次に、挿絵やたし算とわかる言葉から問題文に合う式を考える。そして、既習内容をもとに、加法と減法が組み合わさった3つの数の計算の仕方を考え計算する。また、計算問題や挿絵に合う式を選ぶ問題を解くことで学習内容の確かめをする。さらに、活用問題として式に合うお話をつくり、グループで交流することで、加減の計算の意味の理解を深めさせる。最後に、本時学習のふりかえりをして、自己の伸びに気づかせる。

3 目 標

- (1) 3つの数の計算が、1つの加法や減法の式にあらわせるよさに気づき、用いようとする。
- (2) 2つの数の加法や減法の考え方を使得、3つの数の加減の計算の仕方を考えることができる。
- (3) 3つの数を用いて1つの式にあらわし、結果を計算で求めることができる。
- (4) いろいろな組み合わせの3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解することができる。

4 計 画(全3時間)

- 1 加法と加法を組み合わせた3つの数の計算の仕方を考え、計算する。・・・(1)
- 2 減法と減法を組み合わせた3つの数の計算の仕方を考え、計算する。・・・(1)
- 3 加法と減法、減法と加法を組み合わせた3つの数の計算をする。・・・(1) 本時

5 本時の主眼

- いろいろな組み合わせの3つの数の加減の計算の意味や、仕方を理解することができる。

6 準備 挿絵・ブロック・挿絵入りプリント

7 本時の展開

	学習過程	具体的な支援と評価(○支援・◆評価)
確認する ⑩	<p>1 予習したことから、どんな式になるか全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 絵を見てお話を読み、前時の問題と比較しながら本時学習のめあてを確認する。 ○ 既習の問題場面と比較させることで本時学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> どんなけいさんのしかたになるかな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 挿絵を見たりお話を読んだりして、加減の言葉に着目することで立式し、その意味を理解する。 ○ 前時の計算を振り返りながら、計算の仕方を考え、手順に慣れる。 <p>・ $7 + 3 - 4 = 6$ 答え 6こ</p> <p>① 10 ① 7たす3は10</p> <p style="margin-left: 40px;">②-</p> <p style="margin-left: 100px;">② 10ひく4は6 答え6</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【予習内容】 3枚の挿絵とお話を読んで、何算かわかる言葉に線を引く。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 【困難度査定】 自分では、式を立てることが難しい。式を2段階に分けて、作っている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ブロック操作や図で表すなど可視化することでその意味を理解させる。
適応する ⑮	<p>2 練習問題をやる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手順を考えて、適応問題を解く。 ・ 6問の計算問題を解く。 ・ 挿絵と問題にあった式を選ぶ。 「きました」「かえました」の言葉から加法か減法かを判断し、式を選択する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> たしざんとひきざんがまじったしきも、じゅんばんにけいさんする。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最初の計算に下線と答えを書く、次の計算の記号や答えを書くことで、計算の手順に慣れるようにさせる。 ○ 加法の言葉・減法の言に色分けして下線を引かせることで、式を選択しやすくする。 ◆ 手順に従って計算したり、問題に合う式を選択したりすることができる。
活用する ⑮	<p>3 $8 - 4 + 2$になる問題作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 式に合う場面を考えて、問題を作る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ① かきが8こありました。 ② 4こともだちにあげました。 ③ また、2ことってきました。かきは、なんこになりましたか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ $\triangle 3$ の練習問題から選んで、問題作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 減法の言葉、加法の言葉が入っているか確認させる。 ○ 問題作りに難しさを感じる子には、式に合う問題場面が想像しやすくなるよう、図を描いたり、ブロックを操作したりするよう子に応じた支援をする。 ○ 自分で作った問題を隣の友だちや、グループで交流させる。 ○ 自分で場面を想像して、問題作りができるように声をかける。
ふりかえる ⑮	<p>4 わかったことやできるようになったことをふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習でわかったことを発表し、本時学習のふりかえりをする。 ○ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予習の内容と関連付けながら本時学習でわかったことやできるようになったことを書かせる。